



中野真

脳神経外科統括部長

# 医療

## 最前線

県立中央病院から

〈281〉

脳に血液を送る太い血管に血の塊（血栓）が詰まる脳梗塞の一つ「脳主幹動脈閉塞症」の治療で、カテーテルを使った血栓回収療法の有効性を示すデータが集まっている。対応可能な患者の条件が広がり、山梨県立中央病院でも症例は増えている。

者の条件が広がり、山梨県立中央病院でも症例は増えている。

同院脳神経外科統括部長の中野真医師によると、脳梗塞は血管内を流れてきた血栓が詰まることで引き起こされる。血栓から下流の

較的重症化しやすいタイプの大脳動脈という。閉塞する太い動脈「内頸動脈」「中大脳動脈」で、広い範囲に影響を与えてしまう。従来から注射薬で血栓を溶かす治療があったが、効

そのうちの「ステントリトリーバー」は金属でできた網目状の筒で血栓を絡め取る方法で、2015年に有効性を示す報告が出されると、広く行われるようになった。「発症してから1時間」「血栓がある動

# 脳主幹動脈閉塞症に有効 血栓回収療法 適応広く

血の流れが止まり、脳細胞が壊死を起こす。これにより、半身まひが起きたり、言葉が話せなくなったりする。脳へのダメージを低減させるために、いち早く受診する必要がある。

脳主幹動脈閉塞症は、比

果は弱く、血流の再開通に至らないケースがあった。カテーテルと呼ばれる細い管を血管内を通し、先端に取り付けた装置で血栓を取り除く血栓回収療法は、これまでさまざまな装置の

開発が進められてきた。

脈の種類」「脳のダメージの度合い」などで実施の可否が判断され、その後も研究が進んだ結果、いずれの条件も適応範囲が広がっているという。

県立中央病院も、15年6月にステントリトリーバー

による血栓回収療法を導入。症例は増加傾向にあり、22年までに151人に対して実施した。中野医師は「有効性を示す報告が相次ぎ、救うことができる患者が増えてきている。さらに体制を整備して重点的に取り組んでいく」と話している。

第2、4火曜日に掲載します

山梨県立中央病院  
血栓回収療法の推移(件)

